

令和3年度 第2回

丹波市地域公共交通活性化協議会
(丹波市地域公共交通会議)

議 事 録

閱覽用

1 開催日時 令和3年11月29日（月） 午後3時00分 開会

2 開催場所 丹波市立柏原住民センター

3 出席者 (委員)

北川博巳	会長	大野亮祐	副会長
本間和典	委員	足立安夫	委員
水田節男	委員	蘆田長門	委員
田橋一	委員	石田光	委員
三宅広昭	委員	横谷博久	委員
木寺章	委員	長田貴	委員
和田綱木	委員	近藤巧	委員

委員14名出席

(オブザーバー)

寺村圭祐 [代理] (兵庫県交通政策課副課長)
藤本泰男 (デマンド(予約)型乗合タクシー運営者)

4 欠席者 堂本喜代和 委員 塩谷泰久 委員
芦田正吾 委員

5 会議に付した議題及び案件とその内容

1) 開 会

2) 会長あいさつ

3) 議 事

- ① デマンドタクシーの状況分析について
- ② 木曜日運行の社会実験について
- ③ デマンドタクシー1,000回利用者（令和3年9月末時点）への感謝状・記念品の贈呈について
- ④ 路線バスの利用状況について
- ⑤ 丹波市地域公共交通計画について
- ⑥ 周辺地域から丹波医療センターへの移動手段の研究について
- ⑦ 福祉による移動施策について
- ⑧ その他

4) 閉 会

(事務局)

只今から、令和3年度第2回丹波市地域公共交通活性化協議会(丹波市地域公共交通会議)を開催させていただきます。委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、ご出席をいただきありがとうございます。

本日、丹波市老人クラブ連合会会長 堂本喜代和様、丹波市身体障害者福祉協議会 塩谷泰久様、社会福祉法人丹波市社会福祉協議会事務局長 芦田正吾様につきましては、事前に欠席の連絡を受けております。

なお、オブザーバーの兵庫県県土整備部県土企画局交通政策課副課長 奥藤秀樹様の代理として寺村圭祐様に出席いただいております。

まずは、本日お配りしています資料の確認をさせていただきます。

[配布資料の確認]

それでは以降の進行につきましては会長をお願いいたします。

(会長)

皆さんこんにちは。本日はよろしくお願ひいたします。

10月末頃から新型コロナウイルス新規感染者数もめっきり減っておりますけれども、人の動きが元に戻ってはいないか、そういうところを期待しながら、意見、報告等を聞かせていただければありがたいと思っております。

前回の会議では、デマンドタクシーの木曜日運行の社会実験、周辺地域から丹波医療センターへの移動手段の研究、地域公共交通計画の策定、福祉による移動施策等の協議がありましたが、今日もこれらの話が中心になるかと思ひます。

それでは議事を進めます。まずは①デマンドタクシーの状況分析について、②木曜日運行の社会実験について、一括して事務局より説明をお願いします。

[①デマンドタクシーの状況分析について説明]

[②木曜日運行の社会実験について説明]

(資料：別紙1～別紙8-2)

(会長)

ありがとうございます。まずは①デマンドタクシーの状況分析について、何かご質問等ありますか。

(委員)

資料10ページの木曜日運行社会実験の地域別集計表では、市島地域での利用者数が64人

となっています。小学校区別の細かい数字はわかりませんか。

(事務局)

申し訳ありませんが、地域別の集計しかできておりません。さらに細かい小学校区単位の集計は行っておりません。

(会長)

地域別の細かい集計に関しては検討して下さい。

資料を見ますと、利用者数が少しずつ増減していて、利用者が戻っているのかどうかは、判断が難しいと思いますが、金曜日のご利用が多いという傾向はあるようですね。

それから、今年度の1日当たりの利用者数が120人くらいですので、コロナ禍において昨年度と同様の状況で推移すると、少し少ないかなというところでは。

ただ、11月頃から緊急事態宣言等もでていませんから、少しずつ利用者が戻ることを期待するしかないというところだと思いますので、引き続きモニターをしっかりとお願いしたいと思います。

それでは、次に②木曜日運行の社会実験について何かご質問、ご意見はありますか。

デマンド会でも協議していただいたようです。タクシー事業者さんから何かありますか。

(委員)

木曜日運行の社会実験の実施について、市として広報「たんば」、新聞掲載等で周知されたと聞きましたので、デマンドタクシー運行会社として当社でも新聞広告を3ヶ月間毎週木曜日運行社会実験のことを掲載しました。

9月の間は反応がなかったのですが、10月になって、当社だけが実施しているのかという問い合わせがあり、デマンドタクシー運行会社の全社で実施していますとご案内をしたようなことで、市としての周知が不足していたのではないかと思います。

(会長)

ありがとうございます。周知に関して課題があるのだらうと思います。今回どのような周知をされたのか、それに応じて利用状況はどうだったのかを事務局にお聞きします。

(事務局)

利用者への周知につきましては、資料13ページの別紙8-1、7番の利用者への周知として項目ごとに記載しております。

市としても周知に取り組んではいるものの、利用者の方にどこまでご案内ができていたのかというところで、若干不安の残る部分もございますが、全戸配布の市の広報「たんば」への記事の掲載、防災行政無線での全戸に向けた情報発信、ホームページへの掲載等、広く

ご案内いたしました。

また、一番の利用者であるデマンドタクシーのユーザーには、車内掲示によるご案内に加えて、ドライバーの皆様にご協力をいただき、木曜日運行の社会実験の開始前と実施期間中に案内チラシをお配りさせていただきました。

十分なお案内ができていなかったかもしれませんが、ここにお示しをしている方法でご案内をいたしました。

(会長)

ありがとうございます。どこでもそうですが、こういうことをやっていると知れ渡るまでに結構時間がかかるというのは非常によくある話です。

そうかといって、あまり周知をしていない訳でもなくて、広報たんば、ホームページ、防災行政無線放送等を活用していろいろとやっているということです。

先ほどの周知についてのご指摘は、広報を含めて、みんなで問題を考えていきたいと思います。ということで、課題が浮き彫りになりました。

これは社会実験ですから、そういうことが浮き彫りになっているという、ありがたいご指摘だと思いますし、それを踏まえて、次にどうしていくかを考えていくということだと思います。

それでは、②木曜日運行の社会実験についてですが、本日は皆さんで意見交換をして今後の方向性を確認していきたいと思います。

まず、今回実施した12日間の社会実験の結果につきましては、事前に送付した資料の別紙3は8日間の集計でしたので、本日机上に12日間の集計結果をお配りしています。

事務局の説明によりますと、木曜日を含めた週間の平均利用者数が541.4人、1日平均は112.3人で、これまでのデータと照らし合わせると1日平均は増えていないので、以前からの利用者が曜日を分散して利用していると考えられるということです。

先ほどの広報の話も含めて、新規の利用者が少なそうだというのが1点ですね。

それから、資料の9ページ、別紙4に曜日別利用者数の集計も出ていますが、木曜日は相対的に少ないです。周知の関係もあるのかもしれませんが、全体的に少ないので、これも月・火・水・金曜日からの乗り換え組の利用者が多いのではないかと考えられるということです。

それから、資料の15ページ、別紙8-1を見ますと、社会実験に係る費用が2ヶ月分で約200万円必要なので、年間に換算すると約1,200万円の経費を要するという事です。

以上の様な今回の社会実験の結果を考えると、木曜日運行の実施は厳しいということがいくつかのお話をご提供いただいて分かったと思います。

今回のこの結果を踏まえて、どんなことでもよいので、木曜日運行の社会実験をやってみた感想やご意見をお聞きしたいと思います。

先ほどの広報の件も1つだと思います。その他に何かありますか。

(委員)

丹波市の実情が良く出ている結果だと思います。

木曜日は休みの医療機関が多く、医療機関としてもデマンドタクシー利用者は従来の運行曜日の、月・火・水・金曜日で予約をとられているようです。

聞くところによると、医療機関では行きと帰りのデマンドタクシーの時間に合わせて上手く診察等の予約を組まれているようです。

それから、買い物での利用については、曜日が分散することになると思います。

集計を見ると、15日頃と月末の木曜日の利用が少し多いですが、これは年金の支払い日や月末の支払いの関係で金融機関に行かれる方が多いのだと思います。

高齢者の方のご利用が多いこのような状況を考えると、木曜日の1日平均65人というのは、このあたりが限界の数字ではないかと思います。

木曜日運行の社会実験に係る費用が一人当たり約3,700円ということで、デマンドタクシーの運行を始めた初年度に比べると倍以上の費用が掛かっている訳ですが、一人当たりの経費がいくらくらいなら木曜日運行を本格実施するのか、市としてはどうお考えですか。

(会長)

まとめて聞いてから答えていただきましょう。

今のお話は、木曜日の利用状況は大体予想どおりの結果になっていて、費用が掛かるけれども、どのくらいの利用があれば本格実施をするのかというお話をいただいたと思います。

他に何かありますか。

(委員)

資料12ページのお出かけ先集計についてですが、木曜日に病院・診療所へ行かれた方が約26%おられるというのは意外でした。これはやはり丹波医療センターに行かれている方が多いのではないかと思います。

(会長)

ありがとうございます。木曜日は休診のところが多いけれども、これだけ病院へ行く人が多いのは丹波医療センターが関係しているのではないかというご指摘ですね。

それでは、ここまでのご質問に関してお答えいただきたいと思います。

(委員)

木曜日運行の社会実験につきましては、昨年度のこの協議会でまとめていただいた「丹波市における公共交通システムのあり方に関する検証」の中で、木曜日運行の需要が高まってきているという問題提起をしていただき、実際にどれだけご利用があるのかを把握するた

めに実施しました。

ご指摘がありました周知不足については、市としてできるだけ事はやったつもりですが、広く知れ渡るまでに時間を要したことは反省すべきところがあったとっております。

また、9月まで緊急事態宣言がでていましたので、外出控えがあったのではとも考えられます。

今回の木曜日運行の社会実験では、一人当たりの輸送単価が3,742円と高額であることと、従来からの利用者が曜日を分散したご利用となり、新たな需要の掘り起こしにつながってはいないと考えられるため、直ちに木曜日運行を本格的に実施するのは時期尚早ではないかと思っております。

コロナの影響がもう少し落ち着き、また、社会情勢の変化を踏まえながら運行曜日の追加等の必要性があると考えられる場合は、再度社会実験によりニーズを把握して、木曜日運行の実施について検討したいと考えているところです。

先ほどご質問のありました木曜日運行本格実施の一人当たりの輸送単価の目安については、令和2年度、令和元年度並みの概ね一人当たり2,000円程の単価であれば、木曜日運行を実施しようかとご提案できるかと思っておりますが、今回のこの結果を見る限りでは、今のところ時期尚早ではないかと考えております。

(会長)

ありがとうございます。

次に、木曜日の医院の状況について事務局から何かありますか。

(事務局)

木曜日の医療関係へのお出かけにつきましては、丹波医療センターでの降車が大部分を占めているわけではなく、各地域のかかりつけ医や薬局、あんま、マッサージ等の施設も医療機関として集計していますので、それらの場所での降車も多く含まれていると考えます。

(会長)

ありがとうございます。

それでは、木曜日運行の社会実験についてですが、先ほどの市の考え方で大体方向性は決まったかと思っておりますが、その他に何かありますか。よろしいですか。

先ほどの市のお話に大体集約されていますが、今回の社会実験での課題は、広報について、それから、費用対効果についてです。

費用に対する効果としては、コロナ禍という時期的なこともあり良くはない結果でしたが、交通の需要がかなり減っている中で、失敗というわけでもないと思っております。

従来の利用者が曜日を分散して利用されたという形にはなりましたが、デマンドタクシーを使ってくれる方は使ってくれるということが分かったのではないかと思います。

ただ、運行日を週4日から週5日にすると、予約センターの運営費用が雇用の関係でコストが上昇するというところも今回の新たな発見でした。

それに加えて、利用者が少なく、一人当たり3,700円ほどの輸送単価になったということですから、今のところは、木曜日運行の本格実施は時期尚早というのが結論ではないかと思っております。

ただし、必要性のある場合は再度社会実験を実施するというのもも言っていたいておりますので、特に需要が多くなれば柔軟に考えて対応するということだと思います。

社会情勢が回復基調に転じた時に、またこのような話が出てくるとは思います。今のタイミングでは無理はせず、需要が逼迫してきた時にまた検討するということです。

木曜日運行は今回の社会実験で一旦終了というかたちにしたいと思いますが、課題は見えてきましたので、得られたデータをしっかり記録をして次につなげたいと思います。

それでは、皆さん、木曜日運行は一旦終了するというところでよろしいでしょうか。

(異議なし)

特にご異議はないですね。

それでは、木曜日運行は一旦終了するというところでよろしくお願いいたします。

これからどうするのかは必要に応じて考えていきたいと思っております。

地域公共交通活性化協議会としては、今回の社会実験でいろいろと分かりましたので、そのデータをしっかり保管しておくということでよろしく申し上げます。

【 今回の木曜日運行の社会実験で得られた利用状況等のデータを残しておくこととして、木曜日運行は一旦終了することについて承認を得た。 】

それでは次に、③デマンドタクシー1,000回利用者への感謝状・記念品の贈呈について事務局から説明をお願いします。

**[③ デマンドタクシー1,000回利用者（令和3年9月末時点）への
感謝状・記念品の贈呈について説明**

別添資料：デマンドタクシー1,000回以上利用者名簿]

(事務局)

これまで、15名の方に記念品を贈呈しており、令和3年9月末時点で新たに男性が1名、女性が6名、計7名の方が1,000回を超えてデマンドタクシーをご利用されました。

この7名の皆様には、日頃のご利用に感謝し、記念品としてデマンドタクシーの回数券1冊と感謝状を贈呈させていただきたいと思っております。

過去には、会場にお越しいただき、会長よりお渡しいただいた経過もございますが、コロナ禍ですので、記念式典等は開催せず、郵送にて自宅の方へお届けをさせていただきたいと考えております。

(会長)

ありがとうございます。コロナ禍ですので郵送でお届けするという考えです。

たくさん利用されている方は80代、90代の方が多いですね。

これまでは女性の方が多かったけれども、男性の方も1,000回を超えて利用されている方がいるようです。

それでは、記念品等は郵送にてご自宅にお届けすることにつきましてご意見等ございますか。

(異議なし)

**【 郵送によりデマンドタクシー1,000回利用者（令和3年9月末時点）への
感謝状・記念品を贈呈することについて承認を得た。 】**

(会長)

ありがとうございます。これはいつ頃にお届けする予定ですか。

(事務局)

年内を目途にお届けさせていただきたいと考えております。

(会長)

これだけ利用されている方というのは、いろいろなことを知っていらっしゃる方なので、よく使っている方から意見を聞くというのも、今後の公共交通計画作りの要素になってくると思います。

公共交通計画を作る時には、利用者からの声を大事にさせていただきたいと思います。

それでは次に、④路線バスの利用状況についてバス事業者さんにご報告をお願いしたいと思います。

[④路線バスの利用状況について説明]

(委員)

路線バスの利用状況の集計は10月から9月の間で、前年、前々年の期間で比較してみています。直近の数字は、去年の10月から今年の9月の数字ということになります。

丹波市の路線バスは、大きく分けて、丹波篠山市から柏原、柏原から青垣、柏原から野瀬、谷川から柏原の路線があり、この4つの路線で比較しております。

その中で、対前年度比では、柏原～野瀬路線は23.6%減、1,000人強の利用減となっておりますが、他の3路線については増加しております。

しかも結構な大きな数字で増えており、篠山～柏原は約4割増、人数にして3,000人弱の増加、さらに柏原～青垣は非常に好調で67%増、約2万人の増加で合計5万人強の利用人員となっております。また谷川～柏原については、約27%増、1,500人弱の増加となっております。

増加要因について分析したところ、まず一番大きいのは、丹波市における高校生の通学定期券購入補助の拡充で、これが非常に大きな効果を生んだとみております。

実際に通学定期券の利用の増が顕著で、令和3年4月から増便もしております。

そして、令和元年7月に丹波医療センターが開設され、丹波医療センターへ結ぶ路線の利用も徐々に増えてきているのではというところです。

路線バスの乗車券購入補助というのも以前から丹波市で取り組んでいただいております。

それから、令和2年度から中学3年生に対するIC乗車券NicoPaの配布もしていただいております。それらの市の施策がこういった結果に結びついたのではと見ております。

今後もこのような利用増が続いていくことを望んでおり、また当方もそうなるように取り組んでいきたいと思っております。

(会長)

ありがとうございます。バス路線は増加に転じているというお話でしたが、これにつきまして何かございますか。

篠山営業所長、いかがですか。

(路線バス事業者篠山営業所長)

利用状況の増減は常日頃から乗務員に聞き取り等はしており、コロナ禍でも最近は利用人数が戻ってきているということです。

結果的にはコロナ禍前よりも利用人数が増えており、これには驚いている状況です。

今後このペースを維持していければと思っております。

(委員)

先ほどの路線バスの利用状況についての補足ですが、前年度はコロナ禍で休校になる高校がありましたが、直近の1年については、休校措置はない状況です。

当社の路線は通学利用の割合が多いので、そういったところも影響があったと見ています。

(会長)

ありがとうございます。様々な要因が絡んでいると思いますが、令和元年7月のバス路線再編の効果が表れているのではないかと思います。

石生駅を中心に、路線的にはかなりシンプルな形にして編成したので、石生駅に行けばバスに乗りやすいという環境になりましたし、そういうところも少しずつ効果がでていないかと思います。

それから、通学定期券の購入補助で利用者数が増えて、交通の活性化につながっているというところもありがたいです。

ただ、収支という面ではまだ少し厳しいのかもしれませんが。

そういう意味では、これからもまた利用の活性化の取り組みが大事です。

この件について何かありますか。よろしいですか。

それでは次に、⑤丹波市地域公共交通計画について、事務局より説明願います。

[⑤丹波市地域公共交通計画について説明 別紙9]

(参考資料)・丹波市における公共交通システムのあり方に関する検証

- ・公共交通網形成に向けた基礎調査業務報告書
- ・丹波市地域公共交通総合連携計画
- ・鉄道、路線バス、デマンド(予約)型乗合タクシーのそれぞれの利用者数の推移
- ・「てくてくたんば」令和3年3月発行

※次回の会議からこちらの参考資料もお持ちいただくように依頼

(会長)

ありがとうございます。丹波市地域公共交通計画策定のスケジュールの説明でしたけれども、これにつきまして何かございますか。

(委員)

私もこれまでにいろいろな計画に参画をしてきましたが、一部の人が決めた計画に、これに則っていけばいいというような市民感覚になりますので、きちんと市民に参画してもらうことが大事だと思います。

非常にタイトなスケジュールだとは思いますが、パブリックコメントだけが市民参画の方法ではないと思います。

ある程度計画を立てておいて、最終盤になってからパブリックコメントを行うという手法もありますが、第1回か2回目くらいの時に市民の意見を聞く場というのは、当然必要ではないかと思います。

いろいろな意見が出てきますので、計画の策定には苦労があると思いますが、早い段階から市民の意見を聞くということも考えていただきたいと思います。

先日も都市計画マスタープランの住民説明会がありましたが、周知の方法が悪かったのか、地域によっては参加者が10人以下という状況もあります。

ですから、職員の皆さんも委員の皆さんも時間が無い中で大変だと思いますけれども、できるだけ市民の意見も踏まえた計画にしていきたいと思います。

(会長)

ありがとうございます。非常に重要な意見だと思います。

特に、デマンドタクシーをよく利用される方や学生さん等の、公共交通をよく利用されている利用者を代表する層の意向を大事にさせていただいて、また、説明会を丁寧にする等、市民参画の良い方法を考えていただきたいと思います。

これについて何かありますか。

(事務局)

貴重なご意見ありがとうございます。前回の連携計画の際にも、市民の意見を聞く機会等があったかと思います。

今回の計画策定において、現在大まかなスケジュールをお示ししておりますが、この中で、できるだけ市民の意見が聞ける場、説明ができる場を設けられるように検討したいと思います。

(会長)

是非よろしくお願いします。

計画策定には1年4か月くらいかかりますので、市民の方々のご意見が大事だということろを意識しながらスケジュールを進めていただければと思います。

次回の交通会議では、現状と課題、目指すべき基本的な考え方、構成を考えるということろですが、現状の課題把握はどのような形で進めるのか確認させていただけますか。

(事務局)

公共交通に関する課題把握については、令和2年11月の「丹波市における公共交通システムのあり方に関する検証」において一定まとめていただいていると考えております。

もちろんそれ以降の変化もございますが、まずはこの検証を読み返していただき、この中から新たな計画を作っていく、また、新たな課題を出していただくという意見交換を次回の会議でできればと思います。

そして、令和2年の公共交通システムのあり方に関する検証の結果で、そのまま今回の計画にも反映すべきことは、その場でご確認いただければありがたいと思っております。

(会長)

令和2年の公共交通システムのあり方に関する検証を読み返すということと、地域公共交通計画の策定に関する参考資料をファイルにまとめて机上にお配りしているの、今後の交通会議に持参してくださいということですので、大事に保管して読みながら進めていただきたいと思います。

丹波市はいろいろと検証を進めてきましたので、基になるものはありますが、まさに足りなかったのが市民参画の部分ですので、そこを意識して進めていきましょう。

その後の段階として、課題の整理等、事業者にも入ってもらって計画作りをしていくという予定です。

全4、5回くらいの会議で決めていくことになりましたが、よろしく願いいたします。

その間にもいろいろと状況は変わるとお思いますので、新しい情報を仕入れながらやっていければと思います。

それでは、これにつきましてはよろしいでしょうか。ご異議はありませんか。

(異議なし)

【 別紙9の丹波市地域公共交通計画の策定スケジュールに沿って計画策定を進めることについて承認を得た。 】

それでは次に、⑥周辺地域から丹波医療センターへの移動手段の研究についてですが、特に市島地域が他の地域に比べると移動の負担が多いということで、移動手段をどうするのかを研究するということだったと思います。

では、再度確認も含めまして事務局から説明をお願いします。

(事務局)

周辺地域から丹波医療センターへの移動手段の研究につきましては、令和3年3月25日開催の令和2年度の第3回丹波市地域公共交通活性化協議会におきまして、事務局から市内交通の現状や直行便を求める周辺地域の声等についてお伝えをしていく中で、声ではなくて実際のニーズを把握したうえで、次の施策を検討したいとしてご提案を申し上げ、協議会として今後研究を行うと決定をいただいた事項でございます。

本日時点では、協議事項としてご提案できるところまでに至っておりませんので、資料はございませんが、現在までの経過について、口頭でご報告をさせていただきます。

昨年の会議以降、事務局としてニーズ把握の方法について検討してきましたので、その概略を申し上げますと、令和4年度に予算を確保したうえで、モデル地域を選定して一定期間の社会実験を行う等してニーズの把握をしたいと考えております。

そして、周辺地域のうち丹波医療センターへの移動の条件が一番不便である市島地域をモデル地域として、地域内の拠点から丹波医療センターまで一定期間の社会実験ができないかと考えております。

このたたき台を具体化するために、関係機関と調整をしながら案を練る作業を、この会議の直前まで行ってまいりました。

社会実験を行うには、運行に関する法的な根拠、実施事業者、使用車両、乗降場所、予約方法、また利用者に負担していただく運賃等、調整事項が多岐にわたりますが、社会実験の段階であっても、現状の交通体系に与える影響についても考慮すべきだと考えております。

それから、社会実験を行うことによって市民意識が変化するのではないかというような意見もいただいております、まだまだ検討していかねばならない課題は多く、本日時点で具体的な実施方法を提案して協議いただけるところまでは至っておりません。

ですので、本日は今ご報告申し上げたところまでの経過報告に留めさせていただき、事務局を中心に今後も検討調整を進め、協議会で協議いただける実現可能な実施案が調いましたら、できれば次回の会議において具体的実施方法についてご協議いただきたいと考えておりますので、ご了承いただきたいと思っております。

なお、協議が調いましたら遅滞なく社会実験等の研究が実施できるように、事務局として引き続き関係機関との調整を精力的に行いますと共に、令和4年度の予算確保に向けた取り組みを進めてまいります。

(会長)

ありがとうございます。なかなか難しいところが多いようです。

確認ですが、今回の協議の主体といいますか、協議の相手方をお尋ねします。

(事務局)

この件に関しましては、デマンド型乗合タクシーとの関係性が多くございますので、丹波市デマンド会と協議をさせていただいております。

ただ、今回この実験の運行の主体について、デマンドタクシーを使うのか、それとも他の方法にするのかということも考える必要があり、具体的には、タクシー車両を借り上げての社会実験も視野に検討していくという中で、タクシー協会丹波支部とも協議をさせていただいております。

まずは、社会実験で運行する事業者さんを決めて、それから中身を調整していかねば次に進まないということで、まずは丹波市デマンド会、またタクシー協会丹波支部と調整をさせていただいております。

(会長)

ありがとうございます。市内の公共交通のバランスを考えると、どちらかというとタクシ

一を活用できないかというところでしょうか。

既存のデマンドタクシーを応用した運行は、公共交通のバランスが変わってくるので厳しいという話がありました。

それから、他の地域でも直行便の社会実験を希望されることがあるかもしれないので、対応等の考え方を整理して進める必要があるかと思います。

そして、どのようにしてニーズを汲み取るかという原点の部分も、考え方をしっかり整理したうえで、焦らずに関係機関との協議を進めていただきたいと思います。

ここまでで何かご意見等ありますでしょうか。

(委員)

タクシー事業者として先月から今月にかけて直行便社会実験の運行協議に参加していますが、市の考え、民間業者の考えがそれぞれあります。

どの車両を使うのかということや、運行主体の確保にも課題があります。

市島地域で直行便を運行すると路線バス事業者さんの路線と重複しますが、公共交通システムのあり方検証には、公共交通全体のバランスを保つということが書いてあります。

それから、市島地域はほとんど1つのタクシー事業者さんが走っているので、どれだけ民業圧迫になるのかということや、その事業者さんからデータを取ってほしいと、市にはお願いしています。

一市民としては直行便を運行してほしいとは思いますが、タクシー事業者の立場で考えると、反対といえますか、民間事業者を圧迫しない方法を考えていただきたいと思います。

やはり誰もが共存共栄できる方向に進んで行きたいと思います。

(会長)

ありがとうございます。やはり基本的に、公共交通全体のバランスを考えてどのように折り合いをつけるのかを、本当にしっかり調整したうえで進めなければなりません。

これからの丹波市の公共交通をどうするのかという話にもなりますから、焦らずにしっかりと考えて進めていきたいと思います。

ですから、急には結論が出ないと思いますので、経過報告をしていただきながら、しっかりと方向性を示していければと思います。

本日、この場で結論を出すという訳にはいきませんので、事務局において関係機関との調整を継続していただきながら、当協議会としては継続して協議を行うということによろしいでしょうか。ご異議はありませんか。

(異議なし)

【 周辺地域から丹波医療センターへの移動手段の研究について、継続して協議を行う

ことの承認を得た。】

ありがとうございます。それではよろしく申し上げます。

それでは次に、⑦福祉による移動施策について事務局から報告をお願いします。

[⑦福祉による移動施策について説明]

別添資料：1. 丹波市福祉送迎サービス（おでかけサポート）事業について

【障がい福祉課】

2. 高齢者外出支援事業について

【介護保険課】

(会長)

ありがとうございます。福祉による移動施策の利用状況についての報告でした。

この件について何かご質問等ございますか。

(事務局)

健康福祉部です。タクシー事業者様におかれましては、いつも大変お世話になっておりますこと、この場をお借りしまして厚くお礼を申し上げたいと思います。

先ほどのおでかけサポートの件につきまして、補足の説明をさせていただきます。

コロナ禍の外出自粛により若干の利用控えがあったのではないかと考えており、昨年度も同じような状況でしたが、利用が多い少ないというような評価をするのはなかなか難しいのではないかと考えております。

次に、実利用者数についてですが、令和3年3月の時点では112人でしたが、今現在は137人ということで、25人の増加となっております。

次に、予算の執行状況ですが、令和3年4月から約40%の執行率となっております。

それから、従前の制度の大きな課題は一部の方の頻回利用でしたが、そのような課題を解決するということも、今回のおでかけサポートの大きな変化です。

データはありませんが、現在の予約の状況からは頻回利用は改善できていると見てとれる状況です。

以上簡単ではございますけれども、補足の説明とさせていただきます。

(会長)

それでは、ご質問等あればお願いします。

(委員)

確認事項が3点あります。

まず1点目は、おでかけサポート事業の対象者に該当していないけれども、おでかけサポ

ートによる移動が必要な方がおられるのかどうか。

2点目は、新たなおでかけサポート事業に移行した中で、従前の制度から継続して登録されている方が多いと思いますが、新たな登録者の方はどのくらいおられるのか。

3点目は、利用者負担額が発生するようになったことも含めて、利用者からの意見、要望、ニーズがどの程度あって、どういう内容なのかが分かれば教えていただきたい。

(会長)

事務局に回答をお願いします。

(事務局)

まず1点目の、対象者に該当していない方でおでかけサポートが必要な方がおられるのかにつきましては、把握ができていないという状況です。

2点目の新たな登録者数につきましては、対象者になる方の条件が変わり、これまではタクシー券を利用されていた方がおでかけサポートに移行されていますので、その分については新規登録者として増えているという状況ですが、今のところその人数までは把握できておりません。

3点目の意見や要望につきましては、市外での利用ができないのかという意見や、障がいの種別により、120回と60回という形でチケットを配布しておりますけれども、特に60回の方については、チケットの枚数をもう少し増やしてほしいという意見があります。

チケットに関しては、通院用のチケットで買い物でも利用できるようにしてほしいという意見もあります。

いただいたご意見等につきましては、令和3年度から4年度でデータを集積して検証をし、令和5年度で見直し作業をしていきたいと思っております。

(委員)

回答ありがとうございます。1点目については、急にはできるものではないけれども、理想的には評価で具体的な利用根拠を押さえていこうという話が今までの会議の中であったと思います。

そういう中でも、例えば要介護1の方は対象者の中には入らないということになる訳ですが、要介護1の方でもやはり必要だという個別のニーズがないとは限らないので、その場合にどのような判断をされるのかということを知りたい。2点目の登録者数にも関係してきますが、そのあたりを検討されているかどうかを知りたかったです。

(事務局)

その点につきましては以前からご指摘をいただいておりますが、令和3年度からの見直しの中で、そういったところも含めて前向きに検討して参りたいと思っております。

(委員)

分かりました。最後に3点目については、チケット数を増やしてほしい等の制度上での要望が多いのかというような話でしたが、人対人の対応の中で、以前と比べての意見等、課題やニーズが何かでてきていますか。

(事務局)

予約の関係についてですが、市役所は月曜日から金曜日までの平日の就業に対して、おでかけサポートにつきましては土日のご利用ができますので、例えば土日で急にキャンセルしたい場合はどうすればいいのかというようなことになり、その点については非常に課題があると思っております。

(委員)

なるほど。ありがとうございました。

(会長)

ありがとうございます。今のお話ですが、福祉による移動施策ですから、やはり人と人との対応が求められるというところで、ここまで良いシステムを作ったからには、丹波市のおでかけサポートはこういう風に対応していきますという土壌を時間をかけて作っていただきたいという思いです。

効果的に効率的にシステムチックな評価をしっかりとした上で、いろいろな人に対して周知をして如何に利用してもらおうかというところを、これからもいろいろ話し合いながらやってみましょう。よろしくお願いします。

それから、高齢者の外出支援事業については、思ったよりバス券とタクシー券の利用の方が多くて、デマンドはまだ少しよく分かっていない部分があるからなのか、それとも物理的にあまり乗らないということなのかと思いながら話を聞いておりました。

全般的に福祉送迎サービスは体調のこともあってキャンセルがすごく多いのですが、丹波市においては結構少ないと思いました。

これから年度末にかけて、需要が急に伸びてくることありますが、例えば高齢者の支援事業については、もう半分くらいチケットを使われているので、皆さん良く利用されていると思いますが、その辺りの状況はいかがですか。

(事務局)

介護保険課です。タクシー券、バス券は今年初めてお試し券を配布しておりますので、まずは今までどおりタクシー券、バス券をお使いになられて、デマンドタクシーお試し券の利用はタクシー券又はバス券がお手元になくなった段階で少し増えてくると見込んでいます。

(会長)

おそらくそういう流れなのだと思いますが、引き続き注視してください。何か今後の移動の施策を考えるような話になるのではないかと思いますのでよろしくお願いします。

福祉による移動施策について何かご意見等ありますか。よろしいでしょうか。

それでは、またいろいろ一緒に考えていければと思いますのでよろしくお願いします。

それでは次に、次回の予定につきまして事務局からお願いします。

(事務局)

次回の開催日につきましては、令和4年2月から3月頃の開催を予定しています。

(会長)

ありがとうございます。今回は年度末になりますがよろしくお願いします。

それでは、その他として、丹波警察署さんに年齢別の運転免許保有状況の資料をいただきましたので、説明をお願いします。

[丹波警察署より配布資料について説明]

- ・年齢別高齢者の運転免許保有状況他
- ・(参考資料)運転免許返納件数

(委員)

丹波警察署交通課です。

前回の会議で運転免許証の返納の状況を聞かれましたが、数字を示せなかったので、今回は資料をお配りさせていただきました。

運転免許証の返納数については、平成26年には200件ほどでしたが、ここ数年は300件を超える数になっております。

ただし、丹波市民の方が別の警察署で運転免許返納の申請をされた分は含まず、あくまでも丹波警察署で受付けた件数ということになります。

次に、高齢者の運転免許の保有状況についてですが、資料を見ていただくと、高齢の方が高い割合で免許証を持っておられるということが分かると思います。

市において今回いろいろと計画されているかと思いますが、おそらくターゲットは高齢の方だと思うので、運転免許証を保有されている方たちが、免許証を返納しようという気にならないと、なかなかデマンドタクシーの利用率は上がらないのではないかと考えます。

中には運転免許を持っていても運転はされない方もありますが、今は運転免許証を返納すれば、その代わりに身分証明証となる運転経歴証明書が発行されます。おそらく運転免許証を持っているということは、ある程度運転する意思があるのだろうと思います。

運転する意思があるということは、やはり車を保有されているのだろうということで、そのような方々がデマンドタクシー等を使うという考えには、多分なかなかならないでしょうし、ある意味これが、現状の交通に対する期待値の表れなのかなと思っております。

ですから、先ほど広報の話もありましたけど、広報するにしても、高齢の方を狙っておられるのなら、高齢者の方に向けた分かりやすい広報というものもあると思いますし、各種手続きにおいても高齢者の方に向けた、分かりやすい手続きにしていけば運転免許の返納率も上がっていくのかなと思います。

公共交通が使いやすい、とても便利だということになれば、高齢者の皆さんも、じゃあ運転免許証を手放してみようかという様な考えにもなるのではないかと思います。

最近では、高齢の方が事故を起こされることが多く、こういう方達が運転免許を返納してもいいなと思える様な公共交通になっていけたらと思います。

それから、データを見ていただくと、女性の方が運転免許証を手放すのが早いというのが分かりますが、これも参考の資料になると思います。

(会長)

ありがとうございます。

約10年前に、丹波市で運転免許に関する調査をしたことがあります。70歳から74歳の9割が運転免許証を持っているという状況でした。

最近では、小型モビリティへの乗換えや、サポートカーも充実してきていますから、そういうものへの乗換えもあるかもしれませんが、やはり安心して乗れる乗り物は公共交通だと思います。

高齢ドライバーや運転免許の返納について考えている方々に対し、どうやって働きかけるのかということを示していると思います。

また、女性の方が免許証を手放す割合が高いということはよく言われていますので、そういう方達に響くような、コミュニケーションを含めた日々の生活にデマンドタクシーを活用していただけるような周知がこれから大切になってくるのではないかと思います。

この件につきましてはよろしいですか。

その他に何かあればお願いします。

(委員)

タクシー事業者から市にお願いがありますので皆さんに聞いていただきたいと思います。丹波市内には小さい事業者ばかりですが、6つのタクシー会社があります。

それに対して、路線バス事業者は大手の会社の子会社ですが、なぜその大手の会社に市はバスを4台も購入されるのかをお聞きしたいです。

また、市が柏原地域に路線バスの駐車場を借りて賃貸料も払っているようですが、路線バスとタクシーの優遇のされ方がすごく違うという意見をタクシー事業者が言います。タク

シー事業者から二人が委員としてこの会議に参加しておりますが、市役所に何も言わないからこんな状況になるのだと言われるようなことで、今現在大変困っております。

それと、市役所は話し合いをしても議事録を取らないし、約束はしないです。

私はこの公共交通会議に最初から参加していますが、デマンドタクシーの運行開始にあたり、市の前任の担当者が、デマンドタクシーの車両は5年で代替えて、その時に運行費を見直すか、見直さないか考えましようと言われました。

そして、その事を議事録に記録してくれるように再三言いましたが応じてもらえませんでした。

その時の担当者が、市役所の車両は4年、5年以上乗ったことがないから間違いなく替えますと言われましたので、タクシー事業者の皆さんには、議事録はないけれども、こういう約束をしたからと言って了解を得たのですが、現在までに約束は果されておられません。

それと、タクシー事業者の皆さんは、丹波市の年間の予算よりも大きなお金が動いている大きな会社の子会社のような路線バス事業者に、次から次へ新車のバスを4台も助成するというのはおかしくないかということをおっしゃいます。

この件は、市が進んで購入されたのか、それとも路線バス事業者さんが購入依頼をされたのかをお聞きしたいです。

(会長)

タクシー事業者さんのいろいろな集まりの中で言われることも多いのだと思います。

私から一点言わせていただくと、これは公共交通の活性化に関する法律に基づいている話で、そのため丹波市公共交通総合連携計画を立てた上で路線バスの購入を進めてきました。

ですから、決して路線バス事業者を優遇しようということではなくて、地域の公共交通を活性化するために連携した計画に基づいて、市が取り組みを実施しているというところです。その辺りも踏まえた上で、事務局からご説明いただければと思います。

(事務局)

今、会長からお話がありましたとおり、丹波市地域公共交通総合連携計画に基づき、丹波市のバス路線を維持していこうという話の中で、デマンドタクシーの導入と同時期に、路線バス事業者さんに小型低床バス車両を2台貸し出し、それでバス路線を維持していただくということをこの地域公共交通総合連携計画の中に記載し、実際に車両を市が購入して貸与をしているということでございます。

先ほど、4台と言われましたが、おそらく以前から貸し出している車両も含めての4台かと思っております。

今回は、昨年度と今年度1台ずつ、合計2台のバス車両を購入して貸与するのですが、最初に貸与した小型低床バスにつきましても、既に10年近く運行しており、距離も多くなって

おります。意味合い的には、地域公共交通総合連携計画に基づいてバス路線を維持していくための車両対応の継続ということで、小型低床バス車両の代替えとして今回2台の車両を貸し出すものです。

一方で、時期が遅くなって申し訳ございませんでしたけれども、デマンドタクシー車両についても、現在更新作業を順次進めております。

路線バス車両の更新とデマンドタクシー車両の更新は、地域公共交通総合連携計画に沿って、同じ様に対応させていただいているということ、ご理解いただきたいと思います。

また、先ほど、路線バスの駐車場を市が借上げてという話がありましたが、当該車庫については、市の遊休施設であり、路線バス事業者に無償で貸し出しをして有効に活用していただく中で、回送の軽減や、効率的な運行をしていただき、経営資源をバス路線の維持拡充に向けていただくという意味合いで、市から貸し出しています。

議事録等の件につきましては、確かに個々の会議の記録が全て揃っているという訳ではございませんけれども、私どもは打合せをさせていただいた際、その記録を残すよう取り組んでおります。

ただ、デマンドタクシー車両の更新等の予算を伴う事柄につきましては、なかなかその場で決定することができないということで、お約束という形で書類を残すということではできていなかったのではないかと考えております。

(委員)

最初に貸与した小型低床バスが10年近く運行していて距離も長く走っているのに、代替として、昨年度と今年度で2台のバスを購入するという話がありましたが、デマンドタクシー車両もどれだけ走ったか分かっていますか。もう10年も乗っている車両があることも、もっと認識していただきたい。

運行開始から5年で間違いなく替えるという話だったのに、5年経っても10年経っても替えてもらえず、デマンドタクシー車両の傷み方が大きいです。

市役所にもお願いしても来年から考えましようと言われて、それだけ対応が遅れているのに、古いデマンドタクシー車両を使わせて、更に直行便を走らせるというのはおかしいと思います。

10年も使っていたら車両もひどく傷み出すのに、運行開始から5年を過ぎている上に、まだ4年間をかけて車両を替える計画では遅いですし、おかしいと思います。

バス車両の購入は、路線バス事業者がお願いしたのか、市が進んで購入したのかを聞かせていただきたいです。

(事務局)

デマンド車両の更新ですが、確かに期待されているような早い更新はできていないというのが事実です。

市の財政部局と予算を交渉していく中で、何とか令和2年度から4年間で更新していくという予算の確保ができたというところです。

私共の力が及ばずこのような結果になりましたけれども、令和2年度から4年間で更新して、その後についても、車両の更新時期が結果的に分散したということもございますので、できるだけ早く計画を立てて更新するようにはしていきたいと思っております。

路線バス車両の購入の件につきましては、路線バス事業者さんから要望をいただいたという事実がございます。

小型低床バス車両の使用年数につきましては、デマンドタクシーとほぼ同じ約10年ということですが、走行距離はデマンドタクシーで一番多く走行している車両が15万キロであるのに対し、小型低床バスは70万キロ近く走行しており使用できなくなる時期が近づいています。

もちろん車体の強度等の差はございますし、それぞれが耐用できる年数や走行距離を段々と超えていきつつあることは分かっておりますが、財政部局と相談をして今回の更新計画となっておりますのでご理解いただきたいと思っております。

(会長)

車両も10年経つと故障が目立ってきますから、動かなくなった時はどうすればいいのかとかという話もつながってくるので、更新の件はなるべく考えていただきたいです。

財政の話については、協議会の中ではなかなか立ち入れない領域なので難しいところがありますが、タクシー事業者さんから課題として提示されている訳ですから、やはり車両更新計画をしっかりと盛り込んでいくことも大事です。

次の公共交通計画を考えていかなければいけないということもあります。

今のところは、車両更新計画は立てているけれども、4年をかけての段階的な更新になるので、様子を見ながら頑張っていたきたいという話もあると思います。

とにかく、折衝してしっかりやって下さいとお願いしておきます。

私もタクシー事業者の委員の方も、最初からこの協議会に参画していますので、本当によく分かる部分もありますし、やはりそういう意見もしっかり聞いていこうということですので、よろしく願います。

なかなか言いにくい部分もあるかもしれないので、その辺りは酌量して聞いてあげてください。

それでは、そろそろ閉会したいと思いますので事務局にお返しします。

(事務局)

先ほどご質問のおでかけサポートの新たな登録者数について確認したところ、令和3年3月末が291人、今現在が405人ということで、114人の増加となっております。

(会長)

ありがとうございます。それでは、副会長より閉会のごあいさつをお願いします。

(副会長)

本日は第2回の活性化協議会ということで、慎重にご議論いただきありがとうございます。ありがとうございました。

あと2日で師走に入り大変気忙しくなってきますが、交通には十分気をつけていただきたいと思います。

また、新型コロナウイルスにつきましては、新たな変異株が流行しそうな状況でございますので、十分に気をつけながら、新しい年が迎えられたらと思います。

以上で閉会とさせていただきます。本日は大変お世話になりありがとうございました。